

有信アクロス株式会社 加盟店研修会

本日のテーマ

- 虐待防止対策について
- 身体拘束について

令和3年10月27日（水）



I. 虐待防止委員会の設置

II. 虐待防止等に関する指針 (運営規程にも虐待防止の措置に関する事項を追加)

III. 虐待防止の定期研修（従業員向け）

虐待防止対策について

はじめに

今回の介護報酬改定では、全ての介護サービス事業者を対象に、利用者の人権の擁護、虐待防止等の観点から、虐待の発生又はその再発を防止するための

「委員会の開催、指針の整備、研修に実施、担当者を定めることが義務付けられました。」

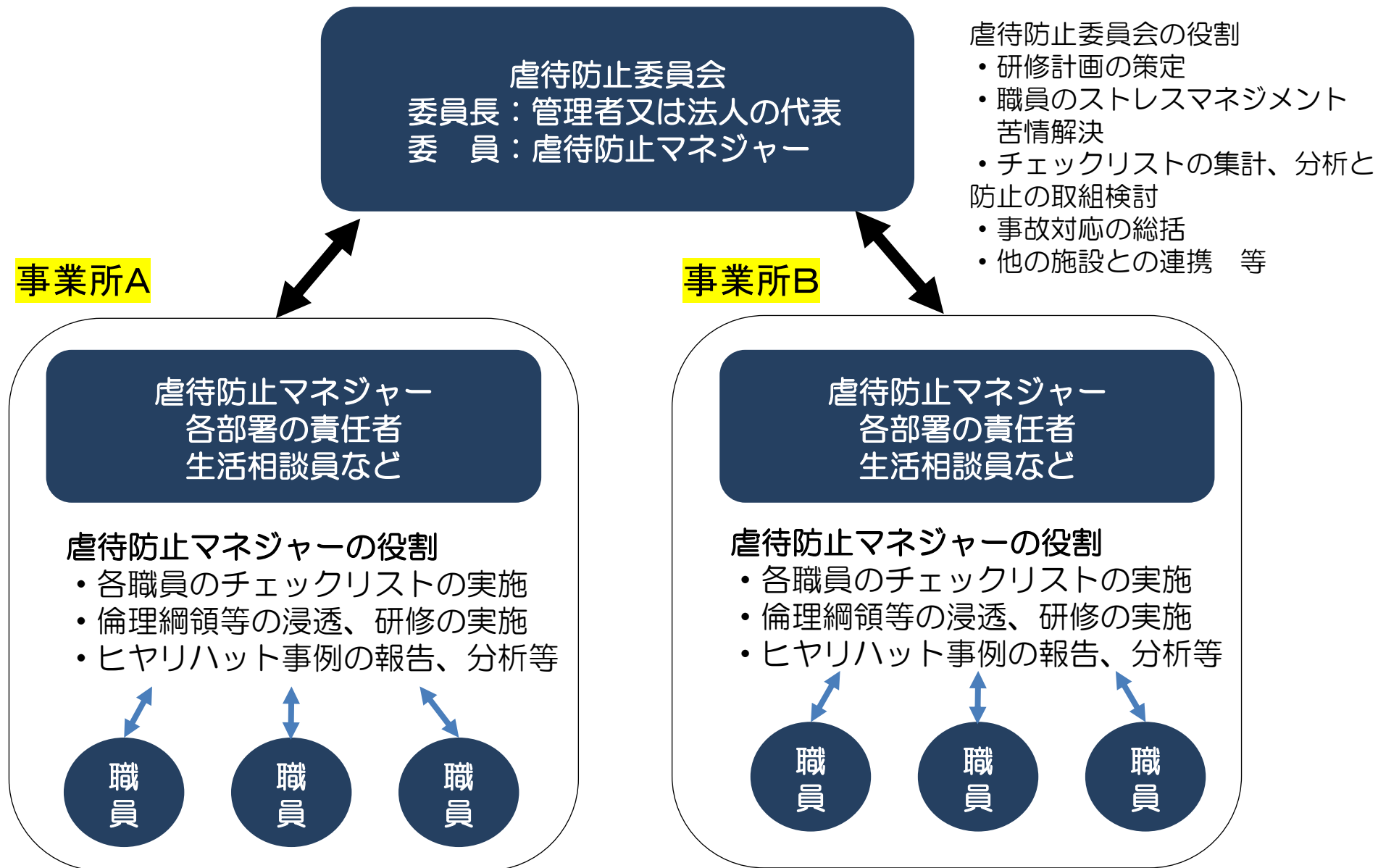
(※3年の経過措置期間有)

【(地域密着型・認知症対応型)通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所】⇒ **令和6年3月31日まで経過措置期間有**

運営基準(省令)に以下を規定

- I. 入所者・利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講じなければならない旨を規定。
- II. 運営規程に定めておかなければならない事項として、「虐待の防止のための措置に関する事項」を追加。
- III. 虐待の発生又はその再発を防止するため、以下の措置を講じなければならない旨を規定。
 - i) 虐待の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等の活用可能)を定期的を開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図ること
 - ii) 虐待の防止のための指針を整備すること
 - iii) 従業者に対し、虐待の防止のための研修を定期的実施すること
- IV) 上記措置を適切に実施するための担当者を置くこと

I. 虐待防止委員会について



I. 虐待防止委員会について

- 【役割】 1.虐待防止のための計画づくり 2.虐待防止のチェックとモニタリング
3.虐待（不適切な対応事例）発生後の検証及び再発防止策の検討

役割	内容
① 虐待防止のための計画づくり	1.虐待防止の研修や虐待が起こりやすい職場環境の確認と改善 2.ストレス要因が高い労働条件確認と見直し 3.マニュアルやチェックリストの作成と実施 4.掲示物等ツールの作成と掲示
② 虐待防止のチェックとモニタリング	1.委員会で虐待が起こりやすい職場環境の確認 2.各職員が定期的に自己点検 3.自己点検の結果を集計し虐待防止委員会に報告 ※管理者や生活相談員は、利用者の個別支援計画の作成過程で確認された個々の支援体制の状況（課題）等も踏まえながら現場で抱えている課題を委員会に伝達する。 ※発生した事故（不適切な対応事例も含む）状況、苦情相談の内容、職員のストレスマネジメントの状況も報告をおこなう。
③ 虐待（不適切な対応事例）発生後の検証 再発防止策の検討	虐待やその疑いが生じた場合、行政の時事確認を踏まえて施設等としても事案を検証の上、再発防止を検討し、実行に移します。

Ⅱ. 虐待防止等に関する指針

運営規程への追加事項 ■対象サービス（地域密着型・認知症対応型）通所介護

（運営の方針）

第2条

1

2

3

4

5 追加事項 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、従業員に対し、研修を実施する等の措置を講じるものとする。

（虐待防止に関する事項）

第〇条 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため次の措置を講ずるものとする。

（１）虐待防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的開催するとともに、その結果について従業員に周知徹底を図る

（２）虐待防止のための指針の整備

（３）虐待を防止するための定期的な研修の実施

（４）前３号に掲げる措置を適切に実施するための担当者の設置

※現在の運営規程に虐待防止に関する事項が記載されておりますが、上記の記載内容に変更をお願いします。

Ⅲ. 虐待防止の定期研修（従業員向け）

虐待の防止のための研修の内容としては、虐待等の防止に関する基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するものであるとともに、当該通所型サービス事業所における指針に基づき、虐待の防止の徹底を行う。

事業所が指針に基づいた研修プログラムを作成し、**定期的な研修（年1回以上）**を実施するとともに**新規採用時**には必ず虐待の防止のための研修を実施する。

また、研修の実施内容は記録をする必要があります。

Ⅲ. 虐待防止の定期研修（従業員向け）

■研修テーマ（例）

虐待防止や人権意識を高めるための研修	1.基本的な職業倫理 2.倫理要領、行動指針、掲示物の周知 3.高齢者虐待防止法等関係法律や通知、指定基準等の理解 4.当事者や家族の思いを聞くための講演会 5.過去の虐待事件の事例を知る 等
職員のメンタルヘルスのための研修	アンガーマネジメント（怒りの感情をコントロールする） 怒りが発生する原因やメカニズム、コントロール方法を理解し、怒りの対処法を身に付ける。 厚労省がおこなっている障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修で取り上げているほか、 文献やワークブックが出版されている
適切な支援が出来るような知識と技術を獲得するための研修	虐待の多くが、認知症の特性に対する知識不足等が挙げられます。 ・認知症の理解と対応方法 ・身体拘束、行動制限の廃止 ・服薬調整 ・同業種との交流
事例検討	個別支援計画の内容を充実・強化するための研修として有効とされている。 ・利用者のニーズを汲み取るための視点の保持 ・個別ニーズを実現するための社会資源等の情報や知識の習得 ・個別支援計画というツールを活用しての一貫した支援及び支援者の役割分担等
利用者や家族等を対象にした研修	虐待防止のための啓発活動、被虐待者の保護等や自立の支援のための施策に協力しなければなりません。

①身体的虐待

暴力や体罰によって身体に傷やあざ、痛みを与えたり、外傷が生じる（可能性）行為。
身体を縛りつけたり、過剰な投薬によって身体の動きを抑制する行為。

【具体的な例】

- ・平手打ちする　・殴る・蹴る　・壁に叩きつける　・つねる　・やけど・打撲させる
- ・無理やり食物や飲み物を口に入れる
- ・身体拘束（柱や椅子やベッドに縛り付ける、医療的必要性に基づかない投薬によって動きを抑制する、ミトンやつなぎ服を着せる部屋に閉じ込める、施設側の管理の都合で睡眠薬を服用させるなど）
- ・適切な装備、休憩を与えずに、著しく寒冷、暑熱等の場所、危険・有害な場所での作業を強いる

どのような行為が虐待かを知る

●身体的虐待のサイン

- ☐ 身体に小さな傷が頻繁にみられる
- ☐ 太ももの内側や上腕部の内側、背中等に傷やみみずばれがみられる
- ☐ 回復状態がさまざまに違う傷、あざがある
- ☐ 頭、顔等に傷がある
- ☐ お尻、手のひら、背中等に火傷や火傷の跡がある
- ☐ 急におびえたり、こわがったりする
- ☐ 「こわい」「嫌だ」と施設や職場へ行きたがらない
- ☐ 傷やあざの説明のつじつまが合わない
- ☐ 手をあげると、頭をかばうような格好をする
- ☐ おびえた表情をよくする、急に不安がる、震える
- ☐ 自分で頭をたたく、突然泣き出すことがよくある
- ☐ 医師や保健、福祉の担当者に相談するのを躊躇する
- ☐ 医師や保健、福祉の担当者に話す内容が変化し、つじつまが合わない

②性的虐待

性的な行為やその強要

（表面上は同意しているように見えても、本心からの同意かどうかを見極める必要がある）

【具体的な例】

- ・ 性交・性器への接触
- ・ 性的行為を強要する
- ・ 裸にする
- ・ キスする
- ・ 本人の前でわいせつな言葉を発する又は会話する
- ・ わいせつな映像を見せる
- ・ 更衣やトイレ等の場面をのぞいたり映像や画像を撮影する

●性的虐待のサイン

- ☐ 不自然な歩き方をする、座位を保つことが困難になる
- ☐ 肛門や性器からの出血、傷がみられる
- ☐ 性器の痛み、かゆみを訴える
- ☐ 急におびえたり、こわがったりする
- ☐ 周囲の人の体をさわるようになる
- ☐ 卑猥な言葉を発するようになる
- ☐ ひと目を避けたがる、一人で部屋にいたがるようになる
- ☐ 医師や保健、福祉の担当者に相談するのを躊躇する
- ☐ 眠れない、不規則な睡眠、夢にうなされる
- ☐ 性器を自分でよくいじるようになる

どのような行為が虐待かを知る

③ネグレクト

食事や排泄、入浴、洗濯など身の世話や介助をしない、必要な福祉サービスや医療や教育を受けさせないなどによって障がい児の生活環境や身体・精神的状態を悪化、又は不当保持しないこと。

【具体的な例】

- ・ 食事や水分を十分に与えない
- ・ 食事の著しい偏りによって栄養状態が悪化している
- ・ あまり入浴させない
- ・ 汚れた服を着させ続ける
- ・ 排泄の介助をしない
- ・ 髪や爪が伸び放題
- ・ 学校に行かせない
- ・ 病気やけがをしても受診させない
- ・ 室内の掃除をしない
- ・ 必要な福祉サービスを受けさせない、制限する
- ・ ごみを放置したままにしてあるなど劣悪な住環境の中で生活させる
- ・ 養護者以外の同居人、施設の他の従業者
- ・ 利用者、企業の他の労働者による身体的虐待や心理的虐待、性的虐待を放置する

どのような行為が虐待かを知る

●ネグレクトのサイン

- 身体から異臭、汚れがひどい髪、爪が伸びて汚い、皮膚の潰瘍
- 部屋から異臭がする、極度に乱雑、ベタベタした感じ、ごみを放置している
- ずっと同じ服を着ている、汚れたままのシーツ、濡れたままの下着
- 体重が増えない、お菓子しか食べていない、よそではガツガツ食べる
- 過度に空腹を訴える、栄養失調が見て取れる
- 病気やけがをしても家族が受診拒否、受診を勧めても行った気配がない
- 支援者に会いたがらない、話したがらない

④心理的虐待

脅し、侮辱などの言葉や態度、無視、嫌がらせなどによって精神的に苦痛を与えること。

【具体的な例】

- ・「バカ」「あほ」など侮辱する言葉を浴びせる
- ・怒鳴る
- ・ののしる
- ・悪口を言う
- ・仲間に入れない
- ・子ども扱いする
- ・人格をおとしめるような扱いをする
- ・話しかけているのに意図的に無視する
- ・言葉や行動（机を叩く、椅子を蹴る等）による脅かし、脅迫等をする
- ・ドメスティックバイオレンスを目撃していることは心理的虐待

どのような行為が虐待かを知る

●心理的虐待のサイン

- ☐ かきむしり、かみつきの等、攻撃的な態度がみられる
- ☐ 不規則な睡眠、夢にうなされる、眠ることへの恐怖、過度の睡眠等がみられる
- ☐ 身体を萎縮させる
- ☐ おびえる、わめく、泣く、叫ぶ等パニック症状を起こす
- ☐ 食欲の変化が激しい、摂食障がい（過食、拒食）がみられる
- ☐ 自傷行為がみられる
- ☐ 無力感、あきらめ、なげやりな様子になる、顔の表情がなくなる
- ☐ 体重が不自然に増えたり、減ったりする

⑤経済的虐待

本人の同意なしに（あるいはだます等して）財産や年金、賃金を使ったり勝手に運用し、本人が希望する金銭の使用を理由なく制限すること。

【具体的な例】

- 養護者又は養護者以外の親族が年金や賃金を渡さない
- 本人の同意なしに財産や預貯金を処分、運用する
- 日常生活に必要な金銭を渡さない、使わせない

どのような行為が虐待かを知る

●経済的虐待のサイン

- ☐ 働いて賃金を得ているのに貧しい身なりでお金を使っている
様子がみられない
- ☐ 日常生活に必要な金銭を渡されていない
- ☐ 年金や賃金はどう管理されているのか本人が知らない
- ☐ サービスの利用料や生活費の支払いができない
- ☐ 資産の保有状況と生活状況との落差が激しい
- ☐ 家族が本人の年金を管理し遊興費や生活費に使っているように思える

身体拘束について

高齢者虐待防止法では、「正当な理由なく障がい者の身体を拘束すること」は身体的虐待に該当する行為とされています。

身体拘束の具体例として、次のような行為が該当すると考えられます。

- ☐ 車いすやベッドに縛り付ける
- ☐ 手指の機能を制限するために、ミトン型の手袋をつける
- ☐ 行動を制限するために、介護衣（つなぎ服）を着せる
- ☐ 支援者が自分の体で利用者を押さえつけて行動を制限する
- ☐ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服薬させる
- ☐ 自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する など

やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その様態および時間、その際の利用者の心身の状況ならびに緊急やむ得ない理由その他必要な事項を記録しなければならない。

やむを得ず身体拘束を行う時の留意点

3要件＋4（プラスフォー）

- ①切迫性：利用者本人、他の利用者の生命、身体に危険が晒される可能性が高い
- ②非代替性：身体拘束以外に代替える介助方法がないこと
- ③一時生：身体拘束は一時的なものであること

手続きの4原則

- ①組織による決定と計画書への記載
支援方針について権限を持つ管理者等の職員が出席した会議等において、組織として決定する必要がある。また、計画書には、身体拘束の様態及び時間、緊急やむを得ない理由を記載する。
- ②本人・家族への説明
本人や家族に、目的、理由、時間、期間等について説明し、同意を得る。
- ③必要な事項の記録
身体拘束を行ったときは、その様態及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由等必要な事項を記載する。